

## 「筑波技術大学 障害者のためのスポーツ体験イベント」実施報告

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

香田泰子 及川 力 天野和彦 中村有紀

**要旨：**わが国では生涯スポーツが推奨されているが、障害者の日常的なスポーツ活動は健常者よりも低調であると考えられる。障害者のスポーツ活動の振興を図るために、2007年11月に本学において障害のある人を対象としたスポーツ体験イベントを開催した。当日は約40名の参加者があり、アンケートによるとスポーツイベントを楽しんだこと、今後もこのようなイベントを実施してほしいことがわかった。障害のある人々においてスポーツ活動の要望があることから、今後もこのようなイベント開催の必要性が明らかになった。

**キーワード：**障害者、スポーツイベント、大学開催、地域スポーツ

### 1. はじめに

現在わが国においては、スポーツを通じた健康の維持・増進や生涯スポーツの振興が提唱されている。文部科学省はスポーツ振興基本計画 [1] において、生涯スポーツ社会の実現や成人のスポーツ人口が50%に増加することを目指して、地域スポーツ活動の振興をうたっている。しかし障害のある人についてみると、障害者のスポーツ活動は低い現状にある。以前視覚障害者を対象に調査した結果 [2] では、スポーツを定期的にやっている人の割合が低く、また地域での活動がしにくい現状が明らかになった。この背景には、障害者においてはスポーツの施設、指導者、仲間や情報が健常者よりも身近にないことが原因と考えられる。障害者がスポーツに関心をもち気軽にスポーツできるようにするには、健常者以上に積極的なアプローチが必要と考えられる。

障害者スポーツの振興のためには、拠点となる施設があることが望ましい。わが国では東京、横浜、大阪、名古屋、福岡など大都市においては障害者スポーツセンターといった施設が設置されており、施設、指導者、仲間、情報提供の面で拠点となっている。しかし本学がある茨城県にはそのような障害者スポーツ施設はまだ設置されていない。

本学は聴覚・視覚障害者を対象とした大学であり、地域貢献の一つとして地域の障害者スポーツ振興を目指す活動は有意義と考えられる。そこで我々は地域の障害者を対象に、保有する能力に応じた各種のスポーツを体験してもらう機会を提供するイベントを開催することにした。この機会を通して障害児・者のスポーツ経験の多様化を図るとともに、将来的には障害者や関係団体等の様々な情報ネットワークの構築、さらに本学を地域の障害者スポーツ活動の拠点にしていくことも視野に入れている。

また、本イベントでは、本学学生にもスタッフとしての

参加を呼びかけ、学生の社会参加を促進することも目的とした。

なお、このイベントは、2006年11月にカスミつくばセンターで開催された「スポーツ・遊びでバリアフリー!」(つくばバリアフリー学習会(代表北村まさみ氏)主催)や、2003年3月に筑波大学で開催された「スポーツ探検隊」(NPO 法人アクティブ・つくば主催)をモデルとして参考にした。

◆ 筑波技術大学 障害者のためのスポーツ体験イベント

**障害のある人、  
スポーツ・遊びを体験しよう!**

平成19年11月18日(日) 9:30~16:00  
筑波技術大学天久保キャンパス 体育館ほか  
(つくば市天久保4-3-15)

障害の種類、年齢問わず参加できます。手話通訳も  
参加費50円(保険代として)  
お申し込みは氏名、年齢、住所、障害の種類、参加希望種目を  
FAXまたはEメールでご連絡ください。(当日参加可)

ハンマーを遠くに投げよう!  
日本員選手

高地障害プロに  
パターゴルフを教わろう!

そびえ立つ壁に挑む! フリークライミング

ハンマー投げ遊び  
ビームライフル  
パターゴルフ  
車椅子バスケット  
ポッチャ  
フリークライミング  
レクリエーション(自由遊び)

《お問い合わせ・お申し込み》 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター  
香田 泰子 FAX 029-858-9529 Eメール sport@k.tsukuba-tech.ac.jp

図1 スポーツイベントのパンフレット(表)

## 2. イベントの準備

### 2.1 イベントの計画と予算の獲得

本学には我々体育科教員が聴覚系2名、視覚系に2名計4名おり、独立行政法人化後、キャンパスは異なっても同じ部局の所属となり、連携して業務にあたっている。そこでこのイベントを4名で計画し準備した。まず予算は障害者高等教育研究支援センター長経費に事業申請して認められ、約40万円(学外の指導者・指導補助者への謝金、仮設クライミングウォール設置費等)を獲得した。

### 2.2 イベントの日程、実施種目と指導者の決定

イベント名を「筑波技術大学 障害者のためのスポーツイベントー障害のある人、スポーツ・遊びを体験しよう!ー」とした。どんな障害者でも実施できる複数種目を用意して、我々4名はコーディネーターを担当し、イベント当日は各種目の専門家や公認障害者スポーツ指導者に指導や指導補助を依頼することとした。なお、指導者には障害者でスポーツで活躍している選手も選出した。

種目および指導者を検討し、指導依頼と日程調整を行った。その結果、実施日は平成19年11月18日(日)に本学天久保キャンパスの体育館やグラウンド、コミュニケーションホールにて、複数種目を時間交代制で、また、同時進行で行うように計画した。実施種目と指導者(指導補助

者)は以下の通りである。

- ・ハンマー投げ遊び：ハンマー投げ・ろう者世界チャンピオン森本真敏氏
- ・ビームライフル：モンゴルライフル射撃協会ナショナルコーチ多田尚克氏(補助者：筑波大学ライフル射撃部員)
- ・ボッチャ、レクリエーション(自由遊び)：公認障害者スポーツ指導者
- ・バダーゴルフ：聴覚障害者プロゴルファー菊地倫彦氏
- ・車椅子バスケット：県内のチーム・ロータス茨城の選手(ボランティアスタッフ：茨城県立医療大学車椅子バスケットチームの指導教員や選手)
- ・フリークライミング：障害者クライミング世界選手権視覚障害者の部優勝者・NPO法人モンキーマジック代表小林幸一郎氏

また、当日受付やビデオ・カメラ係として本学の産業技術学部学生2名と保健科学部学生3名をスタッフとした。

なお、イベントの参加費は無料(保険代50円)とした。

### 2.3 広報活動

このようなイベントの実施は初めてであったので、試行錯誤しながら広報活動を行った。

#### 1) パンフレットの作成と配布(図1、2)

図1、2のようなパンフレット(カラー版)を中村が作成し、つくば市内の障害者団体への配布、公民館での掲示、県南地域の特別支援学校への郵送や配布を行った。

#### 2) 大学のホームページへの掲載

#### 3) 常陽リビング(地域のミニコミ誌)への掲載依頼：11月11日(土)号に掲載された。

## 3. イベントの実施とアンケート結果

### 3.1 参加者

2007年11月18日(土)午前9:30~午後4:00に、計画通り実施した。事前申し込みは3件でどの程度の参加者があるか全く予想がつかなかったが、実際には約40名(保護者、付き添い等含む)の参加があった。年齢は6才から50才代まで、障害の種類は聴覚、視覚、肢体不自由、知的障害で、あらゆる年代のあらゆる障害者が参加してくれた。また、イベントスタッフは指導者12名、指導補助者8名、本学学生スタッフ5名、教員4名の合計26名であった。

### 3.2 アンケートの実施と結果

参加者の感想や今後のスポーツ活動についての希望等を知るために、アンケート調査を実施し、障害者や保護者23名が回答した。その結果は図3の通りであり、参加者がイベントを楽しんだこと、また今後も開催を希望する人が多かった。その開催の頻度は年に2回程度開催してほしい

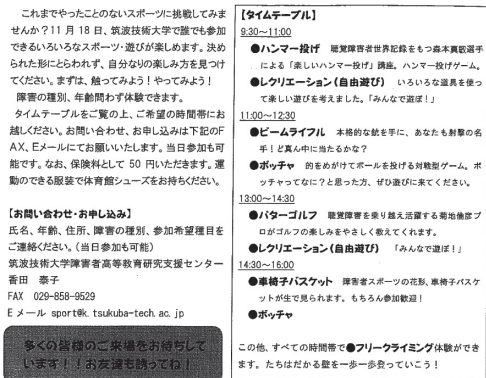


図2 スポーツイベントのパンフレット(裏)

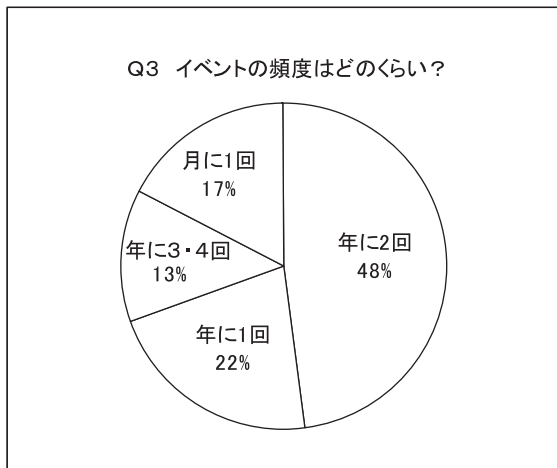
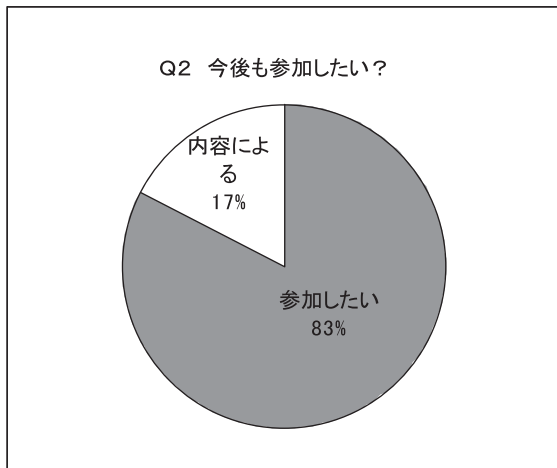
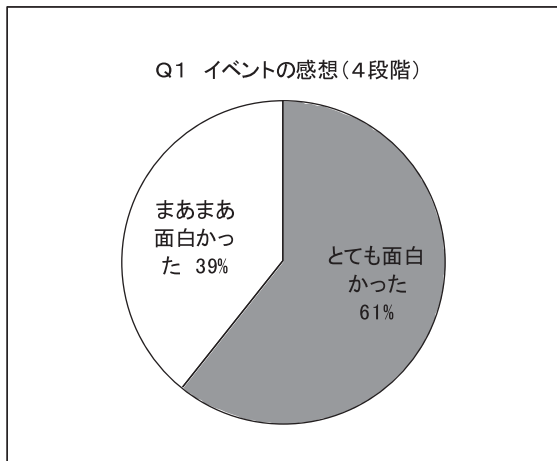


図3 アンケート結果

いという意見が約半数であった。また自由記述による意見には、イベントだけでなく定期的な活動希望や、サークルや団体にもっと広報してほしいという意見があった。

#### 4. 今後の展望と課題

今回、初めて本学において地域の障害者を対象としたイベントを実施したところ、約40名の参加があり、今後も定期的な開催を希望する声が高かった。我々が考えている以上に障害者におけるスポーツ活動へのニーズは高いことが明らかになった。今後の展望と課題として以下が挙げられる。

- 1) 定期的な実施と実施種目の検討、対象者の検討
- 2) 広報活動の充実
- 3) イベント以外の事業への発展:日常的な活動、拠点(施設や情報発信などハード、ソフト両面において)づくり

また、今回は他大学や学外の団体にも個人的なレベルでの協力を仰いだ。まず県内の公認障害者スポーツ指導者に指導および指導補助を依頼した。また、茨城県立医療大学の学生サークル「障害者スポーツ研究会」の教員や学生に車いすバスケットでボランティア参加してもらった。今後このようなイベントも含めた障害者スポーツ振興のためには、以下に挙げるような団体等と連携や協力していくことも重要と考えられる。

- ・茨城県障害者スポーツ研究会
- ・茨城県障害者スポーツ指導者協議会
- ・茨城県障害者スポーツ・文化協会(茨城県障害福祉課内)
- ・つくば市
- ・近隣の大学等

なお、このイベントの実施報告を第3回茨城県障害者スポーツ研究会(2008年2月、於:茨城県立医療大学)および日本体育学会第59回大会(2008年9月、於:早稲田大学)にて行った。

#### 文献

- [1] 文部科学省:スポーツ振興基本計画.平成12年9月(平成18年9月改定).
- [2] 香田泰子・天野和彦:社会人視覚障害者におけるスポーツ活動の現状について.筑波技術大学テクノレポート,14巻(1号),219-223,2007.

## **Report on Sporting Events for Disabled People by Tsukuba University of Technology**

KOHDA Yasuko, OIKAWA Chikara, AMANO Kazuhiko and NAKAMURA Yuki

Research and Support Center on Higher Education, Tsukuba University of Technology

**Abstract:** To promote sporting activities among disabled people, we held an event at the Amakubo Campus of our university. For the event, we prepared Boccia, wheel-chair basketball, free climbing, and other recreation activities that are suitable for the disabled. Around 40 people with various types of disabilities participated and everyone enjoyed it and hope it will be held again. We confirmed the need for this type of sporting event and that we should develop more in the future.

**Keyword:** Disabled people, Sporting event, Sports promotion, Organized by university